

講義コード	D350100101	科目ナンバリング	135F642
講義名	博士論文指導(ドイツ語ドイツ文学専攻)		
英文科目名	Supervision for Doctoral Thesis		
担当者名	岡本 順治		
単位	2	配当年次	D 1年～3年
時間割	集中(通年) その他 集中講義		

授業概要

博士論文の指導を行う。

到達目標

指導教員(主査および副査)から自身の博士論文に関する具体的な助言を得て、論文の内容を改良することができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入
第2回	論文指導
第3回	論文指導
第4回	論文指導
第5回	論文指導
第6回	論文指導
第7回	論文指導
第8回	論文指導
第9回	論文指導
第10回	論文指導
第11回	論文指導
第12回	論文指導
第13回	論文指導
第14回	総括
第15回	第1学期における到達度確認
第16回	第2学期の目標設定
第17回	論文指導
第18回	論文指導
第19回	論文指導
第20回	論文指導
第21回	論文指導
第22回	論文指導
第23回	論文指導
第24回	論文指導
第25回	論文指導
第26回	論文指導
第27回	論文指導
第28回	論文指導
第29回	総括
第30回	第2学期における到達度確認

授業方法

集中で行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に問題点を整理しておくこと(約2時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目

評価配分(%) 備考

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	100%	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

年度末に研究成果レポートを提出。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

年度末に提出される研究成果レポートに関しては、コメントを付して返却する。

その他

主査の教員と綿密に連絡をとること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M350100101	科目ナンバリング	135F641
講義名	修士論文指導(ドイツ語ドイツ文学専攻)		
英文科目名	Supervision for Master's Thesis		
担当者名	岡本 順治		
単位	2	配当年次	M 1年～2年
時間割	集中(通年) その他 集中講義		

授業概要

修士論文の指導を行う。

到達目標

指導教員(主査および副査)から自身の修士論文に関する具体的な助言を得て、論文の内容を改良することができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入
第2回	論文指導
第3回	論文指導
第4回	論文指導
第5回	論文指導
第6回	論文指導
第7回	論文指導
第8回	論文指導
第9回	論文指導
第10回	論文指導
第11回	論文指導
第12回	論文指導
第13回	論文指導
第14回	総括
第15回	第1学期の到達度確認
第16回	第2学期の目標設定
第17回	論文指導
第18回	論文指導
第19回	論文指導
第20回	論文指導
第21回	論文指導
第22回	論文指導
第23回	論文指導
第24回	論文指導
第25回	論文指導
第26回	論文指導
第27回	論文指導
第28回	論文指導
第29回	総括
第30回	第2学期の到達度確認

授業方法

集中で行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に問題点を整理しておくこと(約2時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目

評価配分(%) 備考

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	100%	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

年度末に研究成果レポートを提出

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

年度末に提出される研究成果レポートに関しては、コメントを付して返却する。

その他

主査の教員と綿密に連絡をとること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M350200101	科目ナンバリング	135F611
講義名	◆ドイツ語学特殊研究(1)(学部:言語・情報コース 専門演習)(大学院)		
英文科目名	Studies in the German Language		
担当者名	MEYER, Thomas		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第1学期 金曜日 3時限 南1-204		

授業概要

Grundlage des Unterrichts ist das Lehrwerk Aspekte neu C1 (Klett Verlag), das eine Einarbeitung in themenbezogenen Wortschatz und Grammatik auf dem Niveau C1 bietet. Die Themen umfassen im Wesentlichen gesellschaftliche Felder wie Medien, Bildung, Beruf, Wirtschaft und Lifestyle in aktuellen Ausprägungen und Problemkonstellationen.

到達目標

Ausweitung des Wortschatzes auf C1-Niveau, Verbesserung des Lese- und Hörverständnisses sowie Übung des sprachlichen Ausdrucks anhand von aktuellen Themen.
Deutschkenntnisse auf dem Niveau von C1 werden vorausgesetzt.

授業内容

実施回	内容
第1回	Vorstellung des Kurses / Einführung
第2回	Zeitgefühl
第3回	Engagement in Vereinen
第4回	Handynutzung
第5回	Probleme in Wohngemeinschaften
第6回	Porträt: Dinge des Alltags
第7回	Vor- und Nachteile moderner Medien
第8回	Schlagfertigkeit
第9回	Sprachen lernen
第10回	Dialekte
第11回	Porträt: LaBrassBanda
第12回	Ein „bunter“ Lebenslauf
第13回	Studium und Ausbildung
第14回	Wortschatzarbeit
第15回	Zusammenfassung

授業方法

Das Lehrwerk bietet diverse Möglichkeiten (Texte, Audio-Dateien, Videos), sich themenbezogenen Wortschatz auf dem Niveau C1 anzueignen und in Übungen (Arbeitsbuch) anzuwenden. Der Unterricht umfasst alle Unterrichtsformen von Einzel-, Partner- und Gruppenarbeit bis hin zu Kurzpräsentationen und Diskussionen.

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Neben der üblichen Vor- und Nachbereitung des Unterrichts können vereinzelt Hausaufgaben von geringem Umfang gestellt werden (Fertigstellung von Übungen, Materialauswahl für den folgenden Unterricht u.ä.)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	mündliche Prüfung
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は、異なった基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

mündliches Feedback

教科書

Aspekte neu C1: Mittelstufe Deutsch, Lehr- und Arbeitsbuch, Ute Koithan et al, Klett Verlag, 2016, 978-3126050371

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M350200102	科目ナンバリング	135F611
講義名	◆ドイツ語学特殊研究(2)(学部:言語・情報コース 専門演習)(大学院)		
英文科目名	Studies in the German Language		
担当者名	MEYER, Thomas		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第2学期 金曜日 3時限 南1-204		

授業概要

Grundlage des Unterrichts ist das Lehrwerk Aspekte neu C1 (Klett Verlag), das eine Einarbeitung in themenbezogenen Wortschatz und Grammatik auf dem Niveau C1 bietet. Die Themen umfassen im Wesentlichen gesellschaftliche Felder wie Medien, Bildung, Beruf, Wirtschaft und Lifestyle in aktuellen Ausprägungen und Problemkonstellationen.

到達目標

Ausweitung des Wortschatzes auf C1-Niveau, Verbesserung des Lese- und Hörverständnisses sowie Übung des sprachlichen Ausdrucks anhand von aktuellen Themen.
Deutschkenntnisse auf dem Niveau von C1 werden vorausgesetzt.

授業内容

実施回	内容
第1回	Multitasking
第2回	Soft Skills
第3回	Portrait: Junge Unternehmen
第4回	Entwicklung des Ruhrgebiets
第5回	Gewissensfragen
第6回	Vor- und Nachteile der Globalisierung
第7回	Crowdfunding
第8回	Portrait: Petra Jenner
第9回	Soziale Netzwerke
第10回	Berufliche Ziele
第11回	Gute Vorsätze
第12回	Ehrenamtliches Engagement
第13回	Portrait: Hermann Gmeiner
第14回	Wortschatzarbeit
第15回	Zusammenfassung

授業方法

Das Lehrwerk bietet diverse Möglichkeiten (Texte, Audio-Dateien, Videos), sich themenbezogenen Wortschatz auf dem Niveau C1 anzueignen und in Übungen (Arbeitsbuch) anzuwenden. Der Unterricht umfasst alle Unterrichtsformen von Einzel-, Partner- und Gruppenarbeit bis hin zu Kurzpräsentationen und Diskussionen.

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Neben der üblichen Vor- und Nachbereitung des Unterrichts können vereinzelt Hausaufgaben von geringem Umfang anfallen (Fertigstellung von Übungen, Materialauswahl für den nächsten Unterricht u.ä.)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	40 %	mündliche Prüfung
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は、異なった基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

mündliches Feedback

教科書

Aspekte neu C1: Mittelstufe Deutsch, Lehr- und Arbeitsbuch, Ute Koithan et al, Klett Verlag, 2016, 978-3126050371

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M350200103	科目ナンバリング	135F611
講義名	◆ドイツ語学特殊研究(3)(学部:言語・情報コース 専門演習)(大学院)		
副題	中世ドイツ語学・文学入門		
英文科目名	Studies in the German Language		
担当者名	平井 敏雄		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第1学期 木曜日 5時限 西2-504		

授業概要

現代ドイツ文化の源流が形作られた中世という時代、ドイツ語圏では現代のドイツ語とは様々な点で異なる言語が話されていました。また、中世最盛期の12～13世紀ごろには、宮廷の騎士階級による詩の文学が大いに栄え、ドイツ文学史上最初の黄金時代と呼ばれています。本授業では、中世盛期に用いられた「中高ドイツ語」の概要を理解し、ドイツ語の歴史および周辺諸言語との関係についての基本的な知識を学ぶと共に、中世文学に触れ、中世の文化・社会・生活全般に関する理解を深めていきます。その際に、現代ドイツ語による参考文献を精読することで、学術的な内容をもったドイツ語テキストを読み解く能力の向上を目指します。

到達目標

- ・中高ドイツ語を中心に、ドイツ語の歴史の概略をつかみ、現代ドイツ語に見られるさまざまな事象の起源を理解することで、現代語への理解をいっそう深める。また、周辺諸言語との関係についての知識を得る。
- ・現代ヨーロッパの源流である、中世の文化・社会・生活に関する知識・理解を深める。
- ・現代ドイツ語による参考文献を精読することで、学術的な内容のテキストに親しみ、ドイツ語の読解力を高める。

授業内容

実施回	内容
第1回	序・中世とは
第2回	ドイツ語の歴史
第3回	続き
第4回	中高ドイツ語
第5回	続き
第6回	中世の社会・生活
第7回	続き
第8回	中世ドイツ文学
第9回	続き
第10回	英雄叙事詩
第11回	宮廷叙事詩
第12回	恋愛抒情詩
第13回	続き
第14回	理解度の確認
第15回	振り返り

授業計画コメント

上記内容は授業で扱うトピックを挙げたもので、この順番で学習するとは限りません。

授業方法

中世の言語・文化に関する現代ドイツ語の文献の講読、中高ドイツ語・ドイツ語の歴史の概要の学習、小発表およびディスカッションなどを考えていますが、具体的には、受講者の人数・能力・関心に応じて決定します。

中高ドイツ語文法そのものの学習および原典講読をするか否かも、受講者の関心・希望をきいた上で決定します。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

ドイツ語による参考資料の指定箇所には、毎回必ずあらかじめ目を通してきて下さい。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	50 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

試験の成績・授業中の課題への取り組みなどによって総合的に評価します。

博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は異なった基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中に説明します。

教科書コメント

教材はプリントを使用します。参考文献等は授業中に適宜指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M350200104	科目ナンバリング	135F611
講義名	◆ドイツ語学特殊研究(4)(学部:言語・情報コース 専門演習)(大学院)		
副題	中世ドイツ語学・文学入門		
英文科目名	Studies in the German Language		
担当者名	平井 敏雄		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第2学期 木曜日 5時限 西2-504		

授業概要

第1学期に引き続き、中世盛期に用いられた「中高ドイツ語」の概要を理解し、ドイツ語の歴史および周辺諸言語との関係についての基本的な知識を学ぶと共に、中世文学に触れ、中世の文化・社会・生活全般に関する理解を深めていきます。その際に、現代ドイツ語による参考文献を精読することで、学術的な内容をもったドイツ語テキストを読み解く能力の向上を目指します。なお、授業の内容上は第1学期の続きとなりますが、第2学期のみの受講も可能です。

到達目標

- ・中高ドイツ語を中心に、ドイツ語の歴史の概略をつかみ、現代ドイツ語に見られるさまざまな事象の起源を理解することで、現代語への理解をいっそう深める。また、周辺諸言語との関係についての知識を得る。
- ・現代ヨーロッパの源流である、中世の文化・社会・生活に関する知識・理解を深める。
- ・現代ドイツ語による参考文献を精読することで、学術的な内容のテキストに親しみ、ドイツ語の読解力を高める。

授業内容

実施回	内容
第1回	中世ドイツの文化
第2回	続き
第3回	現代の中世観
第4回	続き
第5回	ドイツ語と周辺諸言語の関係・歴史
第6回	続き
第7回	歴史言語学的観点から見た現代ドイツ語
第8回	続き
第9回	中世ドイツ文学の詩人たち
第10回	続き
第11回	続き
第12回	続き
第13回	続き
第14回	理解度の確認
第15回	振り返り

授業計画コメント

上記内容は授業で扱うトピックを挙げたもので、この順番で学習するとは限りません。

授業方法

中世の言語・文化に関する現代ドイツ語の文献の講読、中高ドイツ語・ドイツ語の歴史の概要の学習、小発表およびディスカッションなどを考えていますが、具体的には、受講者の人数・能力・関心に応じて決定します。中高ドイツ語文法そのものの学習および原典講読をするか否かも、受講者の関心・希望をきいた上で決定します。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

ドイツ語による参考資料の指定箇所には、毎回必ずあらかじめ目を通してきて下さい。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	50 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

試験の成績・授業中の課題への取り組みなどによって総合的に評価します。博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は異なった基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中に説明します。

教科書コメント

教材はプリントを使用します。参考文献等は授業中に適宜指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M350201101	科目ナンバリング	135F612
講義名	ドイツ語史特殊研究(1)(大学院)		
英文科目名	History of the German Language		
担当者名	SCHARLOTH, Joachim		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第1学期 火曜日 4時限 独文院生室		

授業概要

This class deals with political language in German contemporary history. We will discuss the role of language in a constructivist world view and the meaning of "politics/policy/polity", before we critically reflect on different dimensions of political communication with a special focus on communication in the digital age. We will also learn how to apply corpus linguistic methods to analyse large amounts of textual data.

到達目標

Students taking this course will understand how language is used to create a world view, that makes the political actions of certain political actors necessary. They will also learn principles on how to compile corpora, how to use a corpus query language, and how to interpret the outcome of data-driven textual data analyses.

授業内容

実施回	内容
第1回	Politikbegriffe
第2回	Politikbegriffe
第3回	Sprache und die soziale Konstruktion der Wirklichkeit
第4回	Sprache und die soziale Konstruktion der Wirklichkeit
第5回	Sprache und die soziale Konstruktion der Wirklichkeit
第6回	Sprache-in-der-Politik-Forschung
第7回	Nomination
第8回	Nomination
第9回	Textsorten
第10回	Textsorten
第11回	Symbolische Politik
第12回	Symbolische Politik
第13回	Politische Kommunikation im Web 2.0
第14回	Politische Kommunikation im Web 2.0
第15回	Abschlussdiskussion

授業計画コメント

This course will be taught in German.

授業方法

group discussions, joint data analysis

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

assigned reading

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は異なった基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

students will be given oral feedback about assignments

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M350201102	科目ナンバリング	135F612
講義名	ドイツ語史特殊研究(2)(大学院)		
英文科目名	History of the German Language		
担当者名	SCHARLOTH, Joachim		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第2学期 火曜日 4時限 独文院生室		

授業概要

This class deals with political language in German contemporary history. We will discuss the role of language in a constructivist world view and the meaning of "politics/policy/polity", before we critically reflect on different dimensions of political communication with a special focus on communication in the digital age. We will also learn how to apply corpus linguistic methods to analyse large amounts of textual data.

到達目標

Students taking this course will understand how language is used to create a world view, that makes the political actions of certain political actors necessary. They will also learn principles on how to compile corpora, how to use a corpus query language, and how to interpret the outcome of data-driven textual data analyses.

授業内容

実施回	内容
第1回	Einführung
第2回	Nazisprache
第3回	Nazisprache
第4回	Sprachliche Re-education
第5回	Sprache der 68er-Bewegung
第6回	Sprache der 68er-Bewegung
第7回	Sprache der Umweltbewegung
第8回	Sprache der Frauenbewegung
第9回	Sprache der Neuen Rechten
第10回	Sprache der Neuen Rechten
第11回	Sprache politischer Parteien im Bundestag
第12回	Sprache politischer Parteien im Bundestag
第13回	Sprache im Wahlkampf
第14回	Sprache im Wahlkampf
第15回	Abschlussdiskussion

授業計画コメント

This course will be taught in German.

授業方法

group discussion, joint data analysis

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

students are required to read papers and excerptst from books week by week.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は異なった基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

students will receive oral feedback on the assignments

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M350202201	科目ナンバリング	135F622
講義名	◆ドイツ文学特殊研究(1)(学部:文学・文化コース 専門演習)(大学院)		
副題	Moderne Lyrik und Lyriktheorie		
英文科目名	Studies in German Literature		
担当者名	PEKAR, Thomas		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第1学期 金曜日 2時限 北1-406		

授業概要

In der Veranstaltung wird einerseits ein Überblick über die Geschichte der deutschsprachigen Lyrik gegeben, wobei der Schwerpunkt auf der neuzeitlichen Lyrik (vom Ende des 19. Jahrhunderts bis zum 20. Jahrhundert) liegt. Zum anderen werden auch einige theoretische Texte über Lyrik diskutiert, die danach fragen, was ein Gedicht überhaupt ist und wie Gedichte zu verstehen sind. Darüber hinaus werden Grundlagen der Lyrik-Interpretation vermittelt.

到達目標

Die Teilnehmer und Teilnehmerinnen lernen wichtige deutschsprachige Gedichte kennen, die zeittypisch sind und auf bestimmte ästhetische, kulturelle, soziale und politische Entwicklungen in Deutschland und Europa hinweisen, erhalten Grundlagen der Gedicht-Analyse und Interpretation und bekommen Informationen über bedeutende Dichter und Dichterinnen.

授業内容

実施回	内容
第1回	Einführung; Grundlagen der Lyrik-Interpretation
第2回	Grundlagen der Lyrik-Interpretation
第3回	Überblick über die Geschichte der neuzeitlichen Lyrik
第4回	Lyrik des Naturalismus und Impressionismus
第5回	Arno Holz "Hinter blühenden Apfelbaumzweigen ..." und andere Lyrik
第6回	Fortsetzung: Arno Holz
第7回	Décadence und Fin de siècle
第8回	Hugo von Hofmannsthal "Ballade des äußeren Lebens"
第9回	Fortsetzung: Hugo von Hofmannsthal
第10回	Symbolismus
第11回	Rainer Maria Rilke "Die Flamingos"
第12回	Fortsetzung: Rilke
第13回	Fortsetzung: Rilke
第14回	Abschlussdiskussion
第15回	Nacharbeit zu Hause

授業方法

Es werden bestimmte Themen (wie Theorien oder einzelne Gedichte) in Vorträgen der Teilnehmer und Teilnehmerinnen oder des Seminarleiters vorgestellt und dann im Plenum ausführlich diskutiert, sodass die Arbeitsformen Vorträge und Diskussionen, erweitert durch mediale Präsentationen, sind.

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Lektüre der jeweilig aufgegebenen Texte.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

Jeder Teilnehmer bzw. jede Teilnehmerin soll eine ca. 15- bis 30-minütige Präsentation übernehmen, regelmäßig am Seminar teilnehmen und sich an der Diskussion beteiligen. Die Leistungsbewertung setzt sich zu gleichen Teilen aus der Präsentation und der Diskussionsbeteiligung zusammen.

博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は、異なった基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Der Seminarleiter spricht ausführlich mit jedem Teilnehmer bzw. jeder Teilnehmerin über sein bzw. ihr Referat, vor und nach der Präsentation. Weiter kann über das Diskussionsverhalten und die Seminarorganisation gesprochen werden. Das kann nach den Unterrichtsstunden oder in der Sprechstunde geschehen.

教科書コメント

Alle Texte werden als Kopien ausgegeben.

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M350202202	科目ナンバリング	135F622
講義名	◆ドイツ文学特殊研究(2) (学部: 文学・文化コース 専門演習) (大学院)		
副題	Moderne Lyrik und Lyriktheorie		
英文科目名	Studies in German Literature		
担当者名	PEKAR, Thomas		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第2学期 金曜日 2時限 北1-406		

授業概要

In der Veranstaltung wird einerseits ein Überblick über die Geschichte der deutschsprachigen Lyrik gegeben, wobei der Schwerpunkt auf der neuzeitlichen Lyrik (vom Ende des 19. Jahrhunderts bis zum 20. Jahrhundert) liegt. Zum anderen werden auch einige theoretische Texte über Lyrik diskutiert, die danach fragen, was ein Gedicht überhaupt ist und wie Gedichte zu verstehen sind. Darüber hinaus werden Grundlagen der Lyrik-Interpretation vermittelt.

到達目標

Die Teilnehmer und Teilnehmerinnen lernen wichtige deutschsprachige Gedichte kennen, die zeittypisch sind und auf bestimmte ästhetische, kulturelle, soziale und politische Entwicklungen in Deutschland und Europa hinweisen, erhalten Grundlagen der Gedicht-Analyse und Interpretation und bekommen Informationen über bedeutende Dichter und Dichterinnen.

授業内容

実施回	内容
第1回	Einführung; Wiederholung der Ergebnisse vom letzten Semester
第2回	Stefan George "Der Teppich"
第3回	Fortsetzung: Stefan George
第4回	Expressionismus
第5回	Georg Trakl "Landschaft"
第6回	Fortsetzung: Georg Trakl
第7回	Jakob van Hoddis "Weltende"
第8回	Fortsetzung: Jakob van Hoddis
第9回	Georg Heym "Der Krieg"
第10回	Fortsetzung: Georg Heym
第11回	Dadaismus
第12回	Kurt Schwitters "An Anna Blume"
第13回	Fortsetzung: Kurt Schwitters
第14回	Abschlussdiskussion
第15回	Nacharbeit zu Hause

授業方法

Es werden bestimmte Themen (wie Theorien oder einzelne Gedichte) in Vorträgen der Teilnehmer und Teilnehmerinnen oder des Seminarleiters vorgestellt und dann im Plenum ausführlich diskutiert, sodass die Arbeitsformen Vorträge und Diskussionen, erweitert durch mediale Präsentationen, sind.

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Lektüre der jeweilig aufgegebenen Texte

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

Jeder Teilnehmer bzw. jede Teilnehmerin soll eine ca. 15- bis 30-minütige Präsentation übernehmen, regelmäßig am Seminar teilnehmen und sich an der Diskussion beteiligen. Die Leistungsbewertung setzt sich zu gleichen Teilen aus der Präsentation und der Diskussionsbeteiligung zusammen.

博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は、異なった基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Der Seminarleiter spricht ausführlich mit jedem Teilnehmer bzw. jeder Teilnehmerin über sein bzw. ihr Referat, vor und nach der Präsentation. Weiter kann über das Diskussionsverhalten und die Seminarorganisation gesprochen werden. Das kann nach den Unterrichtsstunden oder in der Sprechstunde geschehen.

教科書コメント

Alle Texte werden als Kopien ausgegeben

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M350300101	科目ナンバリング	135F613
講義名	ドイツ語学演習(1)(大学院)		
副題	Ob-VL疑問文とは？		
英文科目名	Seminar in German Language		
担当者名	岡本 順治		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第1学期 火曜日 2時限 個人研究室		

授業概要

語用論的な現象を総じて社会言語学などの応用言語学に委ねるアプローチとは異なり、近年では統語論や形式意味論で語用論を扱う道筋が示されている。1学期の演習では、Ob-VL疑問文を題材として扱い、Meibauer (1989) を読解し、文ムードと心態詞の意味関係を考察する。

到達目標

博士前期課程の学生: Ob-VL疑問文の特徴を理解し、現象として説明できる。

博士後期課程の学生: Ob-VL疑問文の特徴を理解し、現象として説明できるだけでなく、関連文献をあげて現在の研究の動向を示すことができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション(授業の進め方、一般的注意、参考文献の紹介)
第2回	発表及びディスカッション
第3回	発表及びディスカッション
第4回	発表及びディスカッション
第5回	発表及びディスカッション
第6回	発表及びディスカッション
第7回	発表及びディスカッション
第8回	発表及びディスカッション
第9回	発表及びディスカッション
第10回	発表及びディスカッション
第11回	発表及びディスカッション
第12回	発表及びディスカッション
第13回	発表及びディスカッション
第14回	発表及びディスカッション
第15回	総括

授業方法

参加者による発表を中心として行う。発表後に、他の参加者を交えて、その回の発表内容に関してディスカッションする。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

あらかじめ、予定された部分の文献を読み、問題点を整理しておく(2時間程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)	50 %	

成績評価コメント

平常点は、出席、積極的な議論への参加、研究倫理の順守の総合判断による。

プレゼンテーションは、構成、参照文献の内容、引用の適切さ、議論の正確さ、プレゼンテーション技術に基づいて判断する。博士後期課程の学生は、さらに独自性を重要な判断要素とする。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

個別面談時間で、その学期の総合評価の説明を受けることができる。

教科書コメント

教科書はない。

参考文献コメント

必要に応じて指示する。

履修上の注意

第1回目の授業には必ず出席すること。

その他

分からないことは積極的に質問する、という姿勢を評価します。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M350300102	科目ナンバリング	135F613
講義名	ドイツ語学演習(2)(大学院)		
副題	Ob-VL疑問文の分析		
英文科目名	Seminar in German Language		
担当者名	岡本 順治		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第2学期 火曜日 2時限 個人研究室		

授業概要

語用論的な現象を総じて社会言語学などの応用言語学に委ねるアプローチとは異なり、近年では統語論や形式意味論で語用論を扱う道筋が示されている。2学期の演習では、Ob-VL疑問文の形式意味論的扱いを Zimmermann (2013) をもとに考察する。

到達目標

博士前期課程の学生:Ob-VL疑問文の特徴を理解し、現象として説明できる。

博士後期課程の学生:Ob-VL疑問文の特徴を理解し、現象として説明できるだけでなく、関連文献をあげて現在の研究の動向を示すことができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション(授業の進め方、一般的注意、参考文献の紹介)
第2回	発表及びディスカッション
第3回	発表及びディスカッション
第4回	発表及びディスカッション
第5回	発表及びディスカッション
第6回	発表及びディスカッション
第7回	発表及びディスカッション
第8回	発表及びディスカッション
第9回	発表及びディスカッション
第10回	発表及びディスカッション
第11回	発表及びディスカッション
第12回	発表及びディスカッション
第13回	発表及びディスカッション
第14回	発表及びディスカッション
第15回	総括

授業方法

参加者による発表を中心として行う。発表後に、他の参加者を交えて、その回の発表内容に関してディスカッションする。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

あらかじめ、予定された部分の文献を読み、問題点を整理しておく(2時間程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)	50 %	プレゼンテーション

成績評価コメント

平常点は、出席、積極的な議論への参加、研究倫理の順守の総合判断による。

プレゼンテーションは、構成、参照文献の内容、引用の適切さ、議論の正確さ、プレゼンテーション技術に基づいて判断する。博士後期課程の学生は、さらに独自性を重要な判断要素とする。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

個別面談時間で、その学期の総合評価の説明を受けることができる。

教科書コメント

教科書はありません。

参考文献コメント

必要に応じて指示する。

履修上の注意

第1回目の授業には必ず出席すること。

その他

分からないことは積極的に質問する、という姿勢を評価します。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M350300103	科目ナンバリング	135F613
講義名	ドイツ語学演習(3)(大学院)		
副題	社会語用論文献講読(1)		
英文科目名	Seminar in German Language		
担当者名	清野 智昭		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第1学期 月曜日 5時限 独文院生室		

授業概要

社会語用論とは、言語が社会の中でどのように使われ、どのような変種があり、どのような影響を社会に及ぼすかを研究する分野である。この授業では、その分野で、ドイツ語圏の事象を扱った基本的な文献を読んでいく。

さらに、ドイツ語の読解能力を高める訓練もする。

到達目標

博士前期課程の学生:ドイツ語圏の社会語用論の基本的な知識を習得し、現象として説明できる。

博士後期課程の学生:ドイツ語圏の社会語用論の基本的な知識を習得し、現象として説明できるだけでなく、関連文献をあげて現在の研究の動向を示すことができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション(授業の進め方、一般的注意、参考文献の紹介)
第2回	発表及びディスカッション
第3回	発表及びディスカッション
第4回	発表及びディスカッション
第5回	発表及びディスカッション
第6回	発表及びディスカッション
第7回	発表及びディスカッション
第8回	発表及びディスカッション
第9回	発表及びディスカッション
第10回	発表及びディスカッション
第11回	発表及びディスカッション
第12回	発表及びディスカッション
第13回	発表及びディスカッション
第14回	発表及びディスカッション
第15回	総括

授業方法

参加者による発表を中心として行う。発表後に、他の参加者を交えて、その回の発表内容に関してディスカッションする。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

予定された文献を読み、内容を理解して、問題点を整理しておく(4時間程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)	50 %	

成績評価コメント

平常点は、出席、積極的な議論への参加、研究倫理の順守の総合判断による。

プレゼンテーションは、構成、参照文献の内容、引用の適切さ、議論の正確さ、プレゼンテーション技術に基づいて判断する。博士後期課程の学生は、さらに独自性を重要な判断要素とする。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

個別面談時間で、その学期の総合評価の説明を受けることができる。

教科書コメント

教科書は使用しない。

参考文献コメント

必要に応じて指示する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席すること。

その他

積極的に質問し、議論する、という姿勢を評価します。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M350300104	科目ナンバリング	135F613
講義名	ドイツ語学演習(4)(大学院)		
副題	社会語用論文献講読(2)		
英文科目名	Seminar in German Language		
担当者名	清野 智昭		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第2学期 月曜日 5時限 独文院生室		

授業概要

社会語用論とは、言語が社会の中でどのように使われ、どのような変種があり、どのような影響を社会に及ぼすかを研究する分野である。この授業では、その分野で、ドイツ語圏の事象を扱った最新の文献を読んでいく。

さらに、ドイツ語の読解能力を高める訓練もする。

到達目標

博士前期課程の学生:ドイツ語圏の社会語用論の専門的な知識を習得し、現象として説明できる。

博士後期課程の学生:ドイツ語圏の社会語用論の専門的な知識を習得し、現象として説明できるだけでなく、関連文献をあげて現在の研究の動向を示すことができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション(授業の進め方、一般的注意、参考文献の紹介)
第2回	発表及びディスカッション
第3回	発表及びディスカッション
第4回	発表及びディスカッション
第5回	発表及びディスカッション
第6回	発表及びディスカッション
第7回	発表及びディスカッション
第8回	発表及びディスカッション
第9回	発表及びディスカッション
第10回	発表及びディスカッション
第11回	発表及びディスカッション
第12回	発表及びディスカッション
第13回	発表及びディスカッション
第14回	発表及びディスカッション
第15回	総括

授業方法

参加者による発表を中心として行う。発表後に、他の参加者を交えて、その回の発表内容に関してディスカッションする。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

予定された部分の文献を読み、内容を理解して、問題点を整理しておく(4時間程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)	50 %	

成績評価コメント

平常点は、出席、積極的な議論への参加、研究倫理の順守の総合判断による。

プレゼンテーションは、構成、参照文献の内容、引用の適切さ、議論の正確さ、プレゼンテーション技術に基づいて判断する。博士後期課程の学生は、さらに独自性を重要な判断要素とする。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

個別面談時間で、その学期の総合評価の説明を受けることができる。

教科書コメント

教科書は使用しない。

参考文献コメント

必要に応じて指示する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席すること。

その他

積極的に質問し、議論するという姿勢を評価します。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M350301201	科目ナンバリング	135F624
講義名	ドイツ文学演習(1)(大学院)		
副題	フルトヴェングラーを読む		
英文科目名	Seminar in German Literature		
担当者名	伊藤 白		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第1学期 火曜日 3時限 個人研究室		

授業概要

数々の名演を残し現在に至るまで多くのファンを持つドイツ・クラシック音楽会の巨匠であるとともに、ナチス政権下でベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の常任指揮者を務め、戦後激しい議論の対象となってきたことでも知られる指揮者ヴィルヘルム・フルトヴェングラーは、一方で多くの言葉を残した著述家でもありました。この授業では、フルトヴェングラーがナチス政権下および戦後に書いた論文やメモを読むことで、その音楽観・政治観・人間観を探ります。

到達目標

フルトヴェングラーの音楽観・政治観・人間観について基本的な知識を得、それを主体的に評価できるようになること。研究に必要な倫理を学ぶこと。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	Ton und Wort (1938)
第3回	Ton und Wort (1938)
第4回	Ton und Wort (1938)
第5回	Ton und Wort (1938)
第6回	Ton und Wort (1938)
第7回	Der Fall Hindemith (1934)
第8回	Der Fall Hindemith (1934)
第9回	Der Fall Hindemith (1934)
第10回	Der Fall Hindemith (1934)
第11回	Der Fall Hindemith (1934)
第12回	Aufzeichnungenより
第13回	Aufzeichnungenより
第14回	総括
第15回	到達度確認

授業方法

テキストの読解を進めながら、ディスカッションを行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

指定したテキストを事前に読み、翻訳してきてもらいます。(2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は、それぞれ別の基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

翻訳等に対し、その都度コメントをします。

教科書コメント

授業中に指示します。

参考文献コメント

授業中に指示します。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M350301202	科目ナンバリング	135F624
講義名	ドイツ文学演習(2)(大学院)		
副題	モーツァルトの表象		
英文科目名	Seminar in German Literature		
担当者名	伊藤 白		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第2学期 火曜日 3時限 個人研究室		

授業概要

モーツァルトはさまざまな文学や映画、オペラ、ミュージカルなどに描かれてきました。その一方で、しばしば政治的に利用されてきました。この授業では、19世紀の小説家エドゥアルト・メーリケの『プラハへの旅路のモーツァルト』を読み、後半で、ナチスの宣伝相ゲッベルスのモーツァルト没後150年記念講演を読みます。

到達目標

モーツァルトの表象について基本的な知識を得、それを主体的に評価できるようになること。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	メーリケ『プラハへの旅路のモーツァルト』
第3回	メーリケ『プラハへの旅路のモーツァルト』
第4回	メーリケ『プラハへの旅路のモーツァルト』
第5回	メーリケ『プラハへの旅路のモーツァルト』
第6回	メーリケ『プラハへの旅路のモーツァルト』
第7回	メーリケ『プラハへの旅路のモーツァルト』
第8回	メーリケ『プラハへの旅路のモーツァルト』
第9回	ゲッベルス講演
第10回	ゲッベルス講演
第11回	ゲッベルス講演
第12回	ゲッベルス講演
第13回	ゲッベルス講演
第14回	総括
第15回	到達度確認

授業方法

テキストの読解を進めながら、ディスカッションを行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

指定したテキストを事前に読み、翻訳してきてもらいます。(2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は、それぞれ別の基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

翻訳等に対し、その都度コメントをします。

教科書コメント

授業中に指示します。

参考文献コメント

授業中に指示します。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M350301203	科目ナンバリング	135F624
講義名	ドイツ文学演習(3)(大学院)		
副題	エルンスト・ヤンデルの「文字と音の文学」		
英文科目名	Seminar in German Literature		
担当者名	小林 和貴子		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第1学期 木曜日 1時限 西1-213		

授業概要

単語単位ではなく文字単位で詩を書いたウィーンの前衛詩人エルンスト・ヤンデル(1925～2000)。言語遊戯的なその作品は痛烈な政治批判の性格をも帯びています。この授業では、wien: heldenplatz (1966)をはじめとする代表作を読み解いてみます。

到達目標

・ヤンデルの詩の分析を通して、20世紀オーストリアの歴史を理解する。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	テキスト読解①
第3回	テキスト読解②
第4回	テキスト読解③
第5回	テキスト読解④
第6回	テキスト読解⑤
第7回	テキスト読解⑥
第8回	テキスト読解⑦
第9回	テキスト読解⑧
第10回	テキスト読解⑨
第11回	テキスト読解⑩
第12回	テキスト読解⑪
第13回	テキスト読解⑫
第14回	総括
第15回	予備日

授業計画コメント

・ヤンデルの詩を見てみた後で、その詩について書かれた学術論文(ドイツ語)を読んでいます。

授業方法

ドイツ語を丁寧に読み、内容について議論します。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前にテキストを読んでください(1～2時間程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

修士課程の学生は、文法にのっとってドイツ語を理解し、文意がつかめているかを重視して評価します。博士課程の学生は、ドイツ語原文を批判的に読めるようになっているかを重視して評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回の予習が「課題」です。授業中に確認し、コメントします。

教科書コメント

プリントを配布します。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M350301204	科目ナンバリング	135F624
講義名	ドイツ文学演習(4)(大学院)		
副題	トーマス・ベルンハルト『英雄広場』		
英文科目名	Seminar in German Literature		
担当者名	小林 和貴子		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第2学期 木曜日 1時限 西1-213		

授業概要

1938年3月15日、ヒトラーが高らかにアンシュルス(Anschluss)の完成を宣言した場、ウィーンの英雄広場。ヤンデルも詩の題材にしましたが、英雄広場と言えばトーマス・ベルンハルトの同名戯曲(1988年)を思う人も多いでしょう。この授業では、初演を迎えるまえから一大スキャンダルを巻き起こしたこの作品を読みます。初演当時のオーストリアの政治状況も踏まえた読解を試みます。

到達目標

・戯曲『英雄広場』の分析を通して、20世紀オーストリアの歴史を理解する。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	テキスト読解①
第3回	テキスト読解②
第4回	テキスト読解③
第5回	テキスト読解④
第6回	テキスト読解⑤
第7回	テキスト読解⑥
第8回	テキスト読解⑦
第9回	テキスト読解⑧
第10回	テキスト読解⑨
第11回	テキスト読解⑩
第12回	テキスト読解⑪
第13回	テキスト読解⑫
第14回	総括
第15回	予備日

授業方法

ドイツ語を丁寧に読み、内容について議論します。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前にテキストを読んできてください(1～2時間程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

修士課程の学生は、文法にのっかってドイツ語を理解し、文意がつかめているかを重視して評価します。
博士課程の学生は、ドイツ語原文を批判的に読めるようになっているかを重視して評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回の予習が「課題」です。授業中に確認し、コメントします。

教科書コメント

プリントを配布します。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M350301205	科目ナンバリング	135F624
講義名	◆ドイツ文学演習(5)(学部:文学・文化コース 専門演習)(大学院)		
副題	ドイツにおけるNationと文化の概念(1)		
英文科目名	Seminar in German Literature		
担当者名	大貫 敦子		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第1学期 火曜日 2時限 個人研究室		

授業概要

ドイツの文化史・政治史において、Nationという概念はその時々コンテキストにおいて、多様な意味合いを含んでいます。領邦国家体制の時代には、言語と統治区域とが一致しないために、言語・文化によるNation概念がいずれ到来すべき国家統一へのリベラルな希望と結びついていましたが、ドイツ帝国成立以降は、覇権的ナショナリズムの意味合いを強くし、それを過剰に強調したのがナチス時代です。ドイツの文学・文化を研究するうえで、Nationの問題は避けて通ることはできません。第1学期には、Nationと文化の概念の18世紀末からナチスまでの変遷を追い、他のヨーロッパ諸国と比べて近代化が遅かったドイツ(verspätete Nation)の問題を考察します。

到達目標

ドイツにおけるNation概念の歴史的変遷を把握し、それぞれの時代における問題点を述べるができる。またNationと結びついた文化概念の問題点を把握し、各自の研究テーマと関連させて考察することができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション(Nation概念がはらむ問題性)、研究倫理についても扱う。
第2回	Nationと言語
第3回	Nationと文化
第4回	文化の担い手としてのBürger/Bürgerum (1) 文献読解
第5回	文化の担い手としてのBürger/Bürgerum (2) 文献読解
第6回	Bürgertumの歴史的変遷(1) 文献読解
第7回	Bürgertumの歴史的変遷(2) 文献読解
第8回	19世紀におけるナショナリズムの発生と背景
第9回	19世紀におけるナショナリズムと文化概念の変容
第10回	第一次世界大戦とナショナリズム:知識人の責任
第11回	第一次世界大戦とナショナリズム:文学・文化にみる実体
第12回	ヴァイマル時代におけるナショナリズムとその批判
第13回	ナチスにおけるナショナリズムと文化
第14回	ナチスにおけるナショナリズムと文化
第15回	まとめ

授業方法

共通テキストを全員で講読し、内容についてディスカッションを行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

予め指定するテキスト範囲について、要約を行い、訳せるように準備しておくこと。(2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)	50 %	授業のための準備状況

成績評価コメント

テキストを予め要約し、訳しているかどうか、また内容について自分なりの考察を行っているかどうかを重視します。博士課程前期と博士課程後期の学生については、それぞれ評価基準がことなります。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回の課題については、授業中にコメントをします。訳についてもその都度、コメントします。

教科書コメント

著作権を遵守した上で、テキストをコピーで配布します。

参考文献コメント

授業中に適宜指示します。

履修上の注意

第1回目の授業に出席すること。

その他

欠席する場合には、担当教員に連絡をすること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M350301206	科目ナンバリング	135F624
講義名	◆ドイツ文学演習(6)(学部:文学・文化コース 専門演習)(大学院)		
副題	ドイツにおけるNationと文化の概念(2)		
英文科目名	Seminar in German Literature		
担当者名	大貫 敦子		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第2学期 火曜日 2時限 個人研究室		

授業概要

第二次世界大戦後に二つの国家に分断されたドイツでは、西と東ではまったくことなる国家観を自己理解としていました。ナチスの過去をどう見るかについても東西で見解が異なりました。暫定的な憲法として発布された基本法のもとで、西ドイツでは当初は東ドイツの国家を認めていませんでしたが、1969年にヴィリー・ブラントが東ドイツを国家として認め、"zwei Staaten, eine Nation"をスローガンとしました。こうした背景のもと、Nationという言葉は留保なしには使えないという理解が共有されていきます。1990年の統一以降には、ふたたびNationを肯定的に捉える見解が見られるようになりました。そして2015年以降の難民問題とともに、Re-Nationalisierungとも言える現象が起きています。この授業では、戦後から現代にいたるまでのNationの言説とその問題点を考察します。

到達目標

ナチス時代への反省が戦後のNation言説にどのように反映しているか、また分断国家時代、そして統一後におけるそれぞれのNation概念を理解した上で、現代におけるRe-Nationalisierungについて、自身の見解を纏めることができる。さらに多文化社会のなかでのNation概念を検証することができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション(授業の概要と進め方)
第2回	ナチスの過去との対峙とその言説(1)
第3回	ナチスの過去との対峙とその言説(2)
第4回	東西における国家観の相違(1)
第5回	東西における国家観の相違(2)
第6回	zwei Staaten, eine Nation
第7回	統一前後におけるNation概念
第8回	Leitkultur論争(1)
第9回	Leitkultur論争(2)
第10回	Leitkultur論争(3)
第11回	多文化社会におけるNation観と文化(1)
第12回	多文化社会におけるNation観と文化(2)
第13回	Re-Nationalisierungの現象(1)
第14回	Re-Nationalisierungの現象(2)
第15回	まとめ

授業方法

予め指示するテキストの範囲を予習し、要約をしておくこと。また訳は予め書いておらずにその場で訳すという形で進めます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

予め指示されたテキストの範囲について、要約をしておく。また授業中に訳せるように準備しておく。(2時間程度)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)	50 %	準備の状況

成績評価コメント

博士前期課程と博士後期課程の学生についての評価基準は異なります。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

要約、翻訳については、授業中にコメントします。

教科書コメント

著作権を遵守した上で、コピーで配布します。

参考文献コメント

参考文献は授業中に適宜指示します。

履修上の注意

第1回目の授業にかならず出席してください。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>